事後評価結果（平成２７年度）

担当課 ：	都市計画課
担当課長名 ：	木具　恵

事業名	都市計画道路　徳島東環状線　阿波しらさぎ大橋	事業区分	街路	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島市住吉６丁目　　至：徳島市川内町鶴島			延　長	1,380m

事業概要

本橋は，徳島外環状道路の東側部分の吉野川河口に位置する徳島市住吉６丁目から徳島市川内町鶴島までを結ぶ橋梁整備（橋長１，２９１m）を行うものである。

事業の目的・必要性

徳島市中心部では，都市内交通や通過交通が集中し，慢性的な交通渋滞が発生しており，当該事業によって，徳島市中心部の交通渋滞を緩和するとともに，緊急輸送道路や津波避難場所として防災機能の向上を図る。

事業概要図

事業を巡る社会情勢等の変化

- 平成２４年４月　徳島東環状線全線開通（暫定供用区間含む）
- 平成２７年２月　徳島南環状道路（上八万ＩＣ－徳島市八万町橋北）開通
- 平成２７年３月　四国横断自動車道（鳴門 JCT －徳島 IC 間）開通
- 平成２７年３月　徳島東環状線（阿波しらさぎ大橋－安宅交差点）南行き開通

事業効果

- 国道１１号吉野川大橋の交通量が約２割減少し渋滞緩和に貢献（６４千台→５２千台）
- 徳島市川内町大松から徳島市安宅までの所要時間が１６分短縮（３０分→１４分）
- 徳島市川内方面から，マリンピア沖洲等への通勤，徳島市立高校・徳島商業高校等への通学，スーパーや家電量販店等への買物など日常生活の利便性の向上
- 豊かな自然を感じることができるウォーキングやジョギングコースとして利用され，健康増進に貢献
- 第２次緊急輸送道路，津波一時避難場所に指定され，防災機能が向上
- 干潟への光の漏れを少なくする LED 高欄内照明を設置し，「光の八十八箇所」に認定されるとともに，とくしまマラソンのコースに採用され，観光面でも活用

事業期間	事業化年度	H 12 年度	用地着手	H 13 年度	工事着手	H 13 年度	前回比
	供用年	（前回評価時）Ｈ２４　（今回）Ｈ２４					１．０倍
事業費	前回評価時	３０４．０億円	実　績	３０３．９億円			前回比　１．０倍
交通量（計画値 H42）		前回評価時　２２，１００ 台／日	今回　２１，７００ 台／日				前回比　９８％

費用対効果分析結果（前回評価時）	B／C　１．２	総費用　３１６．７億円	事業費：３１６．３億円 維持管理費　０．４億円	総便益　３６６．４億円	走行時間短縮便益：２４４．１億円 走行経費減少便益：９０．７億円 交通事故減少便益：３１．５億円
基準年	平成２１年				
費用対効果分析結果（今回）	B／C　１．２	総費用　３７６．３億円	事業費：３７５．８億円 維持管理費　０．５億円	総便益　４３７．０億円	走行時間短縮便益：３０７．１億円 走行経費減少便益：９３．６億円 交通事故減少便益：３６．３億円
基準年	平成２７年				

課題と今後の事業への反映

本事業は，豊かな自然環境を有する吉野川河口干潟に位置することから，橋梁形式については，干潟部に橋脚を設置せず，主塔高さを抑えたケーブルイグレット形式を採用すると共に，工事着手前から完成後2年間について環境調査を実施し，学識経験者で構成される環境アドバイザー会議で助言・指導を頂き，環境保全に努めながら事業を進めた。また，大規模事業にもかかわらず，事業期間が短く，完成供用を行うことができた。今後も，環境に配慮した事業推進に努める。